



石川県リハビリテーションセンターニュース

目次

30年目の虹に向かって	1
地域リハビリテーション活動支援事業	2
リハビリテーションセンター研修事業	3
リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業	4～5
高次脳機能障害相談・支援センター事業	6～7
難病相談・支援センター事業	8

30年目の虹に向かって

石川県リハビリテーションセンター次長 岸谷 都

当センターは、平成6年10月に開設され、来年で20周年を迎えます。センターの役割は、障害のある方やお年寄りなど生活に困難さを感じる方が、安心して生活できるよう総合的リハビリテーションを提供することです。具体的には、専門的リハビリテーション医療の提供、施設や地域へのリハビリテーション技術支援、リハビリテーション関係者の技術向上のための研修会開催、高度先進的な福祉用具の情報提供・研究開発等です。

リハビリテーション医療は、県が済生会金沢病院に指定管理を行い、リハビリテーション病棟（平成14年11月より回復期リハビリテーション病棟）45床により専門性の高い治療の提供を続けてきました。

リハビリテーション技術支援は、県内各地の病院、福祉施設、学校、市町等からの要請が増え、年間1100件を超えました。福祉用具の相談には当初、当センター職員で対応していましたが、さらなる専門的な要望に応えるべく工業試験場、建築住宅課との医療・工学混成チームのバリアフリー推進工房が平成8年に結成されました。平成10年には、敷地内にバリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」が設置され、実際の住宅で、より自立的な生活を体験していただき、個人の住宅のみならず、公営住宅、学校等の公共施設建設にも役立てていただきました。年間利用者数は約2800人であり、福祉、医療系学生の教育のみならず小中学生のバリアフリー体験を通しての福祉教育にも活用されています。

さまざまな障害による生活の不都合さは、それぞれの障害や生活背景により異なります。しかし、生き生きとその人らしく輝いて生活していきたいという気持ちは誰にでも共通することで、それを大切に支援していくのが我々の使命だと思います。自分の身体を自分の意思で動かし、家事、仕事、学業、趣味などに必要な道具を自分で活用していくことが、主体的に生きていくことにつながります。

近年はIT技術の発達、再生医療の進歩により、人間の潜在能力と機器との融合により重度障害とみなされていた方の生活の可能性が大きく開けてきました。当センターも今年度は、さらなる可能性を追求し、動作解析装置や神経筋再教育機器などの医療機器を導入し、より適切なリハビリテーションプログラムを提供できるようにする予定です。

また、適切な福祉用具や環境調整の支援ができるよう、「ほっとあんしんの家」に能力評価機器、重度障害者用の電動車椅子、意思伝達装置などを整備し、一般的にはカタログなどでしか見られない福祉用具を体験、試用できるよう整備する予定です。

さらに、県内各地でも同様の支援が受けられるよう、関係者に事例を通したより実践に役立つ研修会を開催し、多職種のチームアプローチを支援していく予定です。このような当センターの機能を強化することで、「県内の誰もが住み慣れた地域で安心して生活できることを支える」という理念が時を経ても続いていくことを願っています。

当センターのエントランスに入って左手の壁に虹のモニュメントがあります。それを見上げるたび、リハビリテーション関係者たちが手を携えてつながり、人が生きていくそれぞれの道にその人の虹の架け橋を架けていくことを祈っています。

●障害のある子どもたちの食事動作支援

特別支援学校や特別支援学級からの依頼で「食事の自立」に関する相談が多くなっています。障害のある子ども達の中には、介助で食べている子ども達や自分で何とか食べようとしてもうまくいかない子ども達があります。リハビリテーションセンターでは、先生と一緒に子どもの能力を引き出すために色々と試行錯誤しながら取り組んでいます。今回は食事動作の自立を進めるに当たり幾つかのポイントについて紹介します。

1 食事の姿勢

食事動作にはまず座位の姿勢が重要です。子どもにあった椅子、机の環境を整えることが基本です。猫背で顎出し姿勢になると口が閉まりにくく、また嘔む動作や嚥下も困難になります。足が床につかないと安定して手を使うことができません。

姿勢の対応としては、まず子どもの姿勢を真似して食事をしてみることをお勧めします。たとえば猫背で顎出し姿勢、足が床にしっかりとつかない状態で少し高めの机で食事をしてみてください。いかに困難かが理解できると思います。そこで、椅子や机の高さを調節し、座位を安定させるための様々なパッドなどを利用しながら子どもの食べやすい姿勢を検討します。

2 食事のための自助具

近ごろ、食事を補助する道具は様々なところで見かけるようになり、特殊なものから見慣れた用具に変わりつつあります。しかし、今度はどのような子どもたちに、どのような用具を使っていくとよいのかを悩むのではないのでしょうか。うまくいかなかったときに、その理由を「使えない道具」として終わらせてしまうこともあるのではないのでしょうか。

学校や施設に訪問し、その子が本来持っている能力に加え、環境因子（机、椅子の形状、関わる人の対応等）によって、手の動きが変わることを説明し、実際に用具を試用しながら、先生方と一緒に検討します。先生方には、「この道具が良いから使ってください。」ではなく、「この子にはこのような能力があり、このような要素を持つ道具を提供すると食事動作の発達を促す手助けになります。」と伝えます。その結果、先生方の環境・道具に対する視点が広がり、使えないと思っていた道具が実は発達を促す大切な道具になる気づきになります。

*道具のポイントを記しましたが、あくまでも一般的な特徴ですので、使用する子どもによってメリット・デメリットがあります。



首を傾けなくても飲みやすい形状



手が不自由でも持ちやすい形状



口に入れた時の感触が優しく、
歯や唇への口あたりも柔らかい素材



縁が立ち上がっており、スプーンなどの操作がしやすい形状



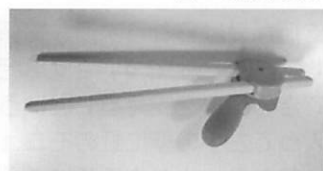
口への取り込みや様々な持ち方に配慮した素材と形状



握力が弱くても、
軽く、握りを助ける形状



手の発達を促す手がかりや、効率のよい腕の動きを引き出す形状



リハビリテーションセンター研修事業

1 地域リハビリテーション研修

リハビリテーション関係機関の連携を推進するための研修会です。

(1) 地域リハビリテーション研修会

日時	内容および講師	会場	対象者
10月20日(日)	地域包括ケアと求められる医療からの地域連携 ーリハビリテーションの推進ー(仮) 講師:公立みつぎ総合病院 院長 林 拓男氏	県リハセンター	保健・医療・福祉関係者等

(2) 地域リハビリテーション実務者研修会

日時	内容および講師	会場	対象者
9月7日(土)	生活機能向上に向けた計画の立て方とアプローチ ①ADL能力向上に向けた計画の立て方とアプローチ ②バランス能力向上に向けた計画の立て方とアプローチ ③コミュニケーション障害の見方とアプローチ 講師:①藤田保健衛生大学医療科学部 澤 俊二氏(作業療法士) ②済生会金沢訪問看護ステーション 古矢 泰子氏(理学療法士) ③未定 (言語聴覚士)	県リハセンター	介護保険法・障害者総合支援法関連施設、市町、地域包括支援センター等職員

2 リハビリテーション支援指導研修

リハビリテーション専門職やリハビリテーションに関わる職員への知識の習得や技術の向上をめざすための研修会です。

(1) リハビリテーション医療専門職研修会

日時	内容および講師	会場	対象者
7月6日(土) 14:00~16:00	変形性膝関節症に対する理学療法 講師:広島国際大学保健医療学部 准教授 木藤 伸宏氏(理学療法士)	県リハセンター	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等
10月26日(土) 14:00~16:00	ワーキングメモリと脳内機構 講師:京都大学大学院文学研究科 名誉教授 宇阪 直行氏(認知心理学)		
3月8日(土) 14:00~16:00	高次脳機能障害者の働き方の現状と今後の支援のあり方 講師:障害者職業総合センター研究部門 特別研究員 田谷 勝夫氏		

(2) リハビリテーション技術研修会

日時	内容および講師	会場	対象者
1月~2月	障害者の生活動作(仮) 講師:県リハビリテーションセンター職員(理学療法士)	県リハセンター	障害者総合支援法関連施設の職員等

3 福祉用具研修

福祉用具に関する知識の習得や技術の向上をめざすための研修会です。

(1) テクニカルエイド普及研修会(県立いしかわ特別支援学校との共催)

日時	内容および講師	会場	対象者
8月1日(木)	特別講演 不器用な子どもへのアプローチーからだをここにむすぶー(仮) 講師:NPO法人ぶねうま群馬 岩崎 清隆氏(作業療法士) 分科会 生活支援と移乗動作ー生活体験棟を活用した実習ー(仮) 講師:県リハビリテーションセンター職員 福祉用具の展示	県立いしかわ特別支援学校	教員、保育士、保健師、支援員、その他関係者

(2) 補装具に関する研修会(県身体障害者更生相談所との共催)

日時	内容および講師	会場	対象者
6月22日(土)	平成25年度補装具制度の概要とその活用について 講師:県更生相談所職員、県障害保健福祉課職員	県リハセンター	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、補装具契約業者等

(3) バリアフリー啓発普及事業

日時	内容および講師	会場	対象者
10月27日(日)	障害者ふれあいフェスティバルへの参加 福祉用具やユニバーサルデザイン用品の紹介	県リハセンター	高齢者及び障害者関連施設関係者等

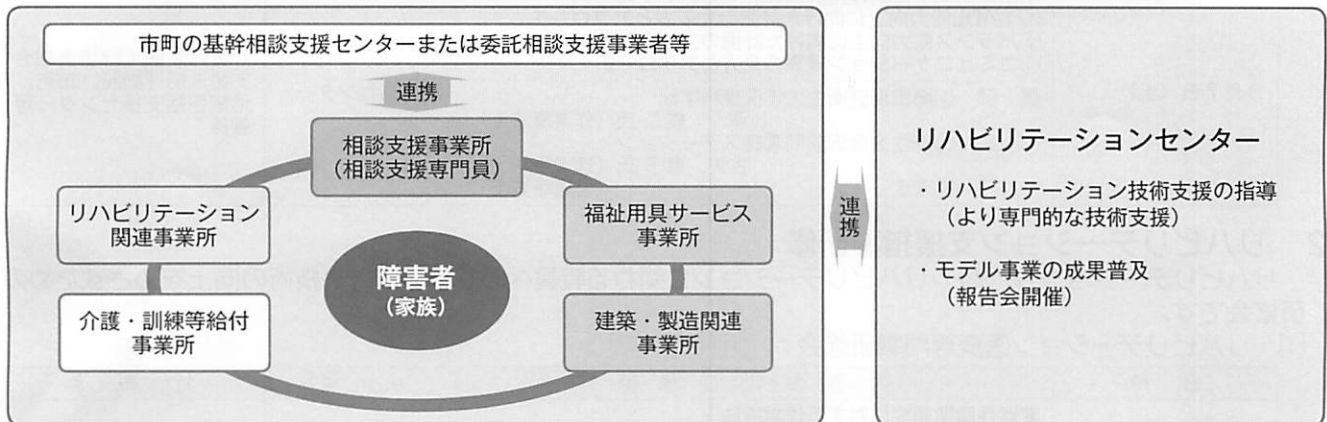
リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業

●障害者の自立に向けた支援機関連携モデル事業

第33号（前号）のニュースでお知らせしましたとおり、当センターではH24年度に実施しました「リハビリテーション技術支援機能強化検討会」での議論をもとに、障害のある方ができる限り地域の中で本人の身体特性を生かした自立的な日常生活・社会生活ができるよう、福祉用具等を用いたリハビリテーション技術支援の体制づくりを推進し、身近な地域での相談支援体制の充実を図っていきたくと考えています。

具体的には、県内3地域でケースに関わる支援者が実際の事例を通じた検討会等を実施しながら支援者同士のネットワークを強化し、各地域で適切なリハビリテーション技術支援を提供するモデル事業を実施します。

モデル事業のイメージ



●補装具等の適合・供給人材スキルアップ研修事業

各地域で障害のある方の機能障害を補完する補装具等を用いた質の高い生活支援が行われることを目指して、人材育成を図るための「補装具等の適合・供給人材スキルアップ研修」を行います。いずれも4年間の計画です。

この研修では、①自立支援型サービスの視点を重視したプランニング研修と、②補装具に関する適合・選定・改良・製作等の実践的技術研修の2つの研修を実施します。研修の詳細内容は下記のとおりで、①の研修は3回1コースで、各地域の専門職の方々が受講しやすいように、開催地を金沢、加賀、能登会場と毎年移して実施する予定です。今年度は金沢地区で開催します。②の研修は、補装具の中でも電動車椅子、オーダーメイド車椅子、座位保持装置、重度障害者用意思伝達装置の種目ごとに毎年6回1コースとして実施していく予定です。今年度のテーマは「電動車椅子」です。

障害のある方々の身近な地域でリハビリテーション技術支援を提供するには、それに必要となる人材が不可欠です。多くの方々にこの研修に参加いただき、ご理解とご協力をお願いしたいと思っております。なお、研修会の開催につきましては、時期が近くなりましたら改めてご案内いたします。

①自立支援型サービスの視点を重視したプランニング実践研修

【目的】 障害者や高齢者の自立度の高い生活を実現するには、本人を中心にした的確な支援計画を作成し、福祉サービス等に関する幅広い情報提供をはじめ、障害者の望むニーズやアセスメントに十分配慮したリハビリテーション技術支援を活用することが必要です。このため機能障害があっても福祉用具や環境調整により、その人らしい生活を実現するためのプランニング手法を学ぶことを目的に研修を実施します。

【対象】 障害者の相談支援専門員、介護支援専門員、市町職員、地域包括支援センター職員 等

回	日時	内容および講師	備考
1	7月11日(木) 10:00~12:00	講義名：身体の特性を生かした自立度の高い生活の実現をめざして 内容：福祉用具を用いて自立度の高い社会生活を実現する可能性とそのために必要な視点を学ぶ 講師：NPOバーチャルメディア工房さぶ 金沢美術工芸大学 理事長 上村 数洋氏 名誉教授 荒井 利春氏	講義形式
	7月11日(木) 13:00~15:00	講義名：自立を視点においた事例のプランニング実践紹介 内容：能力を生かしたリハビリテーション技術支援の具体的なケアプランの実践例を学ぶ 講師：相談専門員 リハビリテーションセンター職員	講義形式

2	9月27日(金) 9:30~12:30	講義名：生活の中で活用する福祉用具の考え方 内 容：福祉用具の基本的な考え方や、生活場面における活用方法について、実技を通して学ぶ 講 師：リハビリテーションセンター職員	演習形式
	9月27日(金) 13:30~15:30	講義名：自立を視点においたアセスメントへの取り組みポイント 内 容：見立てのポイント、関係機関との繋ぎについて学ぶ 講 師：医療法人社団 カタクリ会、介護老人保健施設 カタクリの花 社会福祉士 精神保健福祉士 小島 操氏	講義形式
3	11月29日(金) 13:00~16:00	講義名：事例演習 内 容：実際に事例を用いてプランニングを行う 講 師：医療法人社団 カタクリ会、介護老人保健施設 カタクリの花 社会福祉士 精神保健福祉士 小島 操氏	演習形式

注1：研修会の開催場所については、H25年度：金沢地区、H26年度：加賀地区、H27年度：能登地区を予定しています。

注2：原則として1～3回の全てを受講された方に修了証を交付します。1年で全てのコースが受講できなかった場合は、次年度に受講できます。

注3：修了証を取得された方の所属、氏名は、リハビリテーションセンターのホームページに掲載いたします（掲載については、あらかじめ本人の了承を得ます）。

注4：個々のコースへの受講も原則可能とします。

注5：定員を超えた場合は、地域の偏り等を考慮して主催者側で調整させていただきます。

②補装具に関する適合・選定・改良・製作等の実践的技術研修〔H25年度：電動車椅子編〕

【目的】 身体に障害のある方の機能を代償する手段として、補装具はなくてはならない福祉用具であり、個人の身体特性に応じた補装具の適合には、医学的、工学的知識が必要になります。このため、障害のある方へ適切な補装具等を活用したリハビリテーション技術支援ができる人材を育成することを目的に研修を実施します。

【対象】 医師、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、福祉用具専門相談員 等

回	日 時	内 容 お よ び 講 師	備 考
1	12月7日(土) 14:00~15:30	講義名：障害者施策における補装具費支給制度の現状と今後 内 容：補装具に関する国の動向と補装具費支給制度について学ぶ 講 師：厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉用具専門官 加藤 晴喜氏	講義形式
	12月7日(土) 15:30~16:00	講義名：電動車椅子の補装具費支給制度 内 容：電動車椅子の補装具費支給制度について学ぶ 講 師：県身体障害者更生相談所	講義形式
	12月7日(土) 16:00~17:00	講義名：電動車椅子の種類と機能 内 容：電動車椅子の種類について学ぶ 講 師：リハビリテーションセンター職員	講義・演習形式
2	1月18日(土) 14:00~17:00	講義名：身体特性からみた電動車椅子の座位姿勢 内 容：各身体特性に合わせた電動車椅子の適応を促すための、座位姿勢について学ぶ 講 師：神奈川県総合リハビリテーションセンター 作業療法士 松本 琢磨氏	講義・演習形式
3	1月19日(日) 14:00~17:00	講義名：身体特性からみた電動車椅子の操作 内 容：各身体特性に合わせた電動車椅子の操作部の適応とインターフェースについて学ぶ 講 師：リハビリテーションセンター職員	講義・演習形式
4	2月8日(土) 10:00~11:00	講義名：電動車椅子を選定するための条件整理とその手順 内 容：使用目的や身体特性、使用環境に適した電動車椅子を選択していくための手順を学ぶ 講 師：リハビリテーションセンター職員	講義形式
	2月8日(土) 11:00~12:00 13:00~16:00	講義名：電動車椅子の調整・設定 内 容：各電動車椅子の調整・設定方法について学ぶ 講 師：電動車椅子メーカーのエンジニア	講義・演習形式
5	2月15日(土) 14:00~17:00	講義名：生活に応じた電動車椅子の工夫と可能性 内 容：各電動車椅子の特徴・性能による生活適応の工夫や可能性について学ぶ 講 師：ざいとう工房 齊藤 省氏	講義・演習形式
6	3月1日(土) 10:00~15:00	講義名：事例検討 内 容：実際を通じた電動車椅子の適合演習を行う 講 師：リハビリテーションセンター職員	演習形式

注1：原則として1～6回の全てを受講された方に修了証を交付します。

注2：修了証を取得された方の所属、氏名はリハビリテーションセンターのホームページに掲載いたします（掲載については、あらかじめ本人の了承を得ます）。

注3：個々のコースへの受講も原則可能とします。

注4：定員を超えた場合は、地域の偏り等を考慮して主催者側で調整させていただきます。

高次脳機能障害相談・支援センター事業

高次脳機能障害により社会適応が困難な方に対して、生活上の悩み等に関する相談に応じています。必要に応じて医療機関や福祉制度、家族会等の情報を提供しています。

また、下記のとおり高次脳機能障害に関する研修会や教室を開催しています。詳細については高次脳機能障害相談・支援センターまでお問い合わせください。

高次脳機能障害とは…

交通事故や脳血管疾患などによって脳が損傷を受けたことの後遺症で、次のような症状があらわれます

【注意力の障害】

- ・物事に集中できない
- ・うっかりミスが多い

【記憶の障害】

- ・一日の予定を覚えられない
- ・自分のしたことを忘れてしまう

【社会的行動障害】

- ・突然興奮したり怒り出したりする
- ・自分から何もしようとしな

【遂行機能の障害】

- ・物事の段取りがつけられない

平成25年度 行事予定

1 研修会

(1) 普及啓発研修

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
7月13日(土) 13:30~15:30	「光をつかみ取るまで～高次脳機能障害 支援者として、家族として～」 講 師：宮城県 高次脳機能障害ピアカウンセラー 佐々木 智賀子 氏	県リハビリテーションセンター 4階大研修室	どなたでも参加できます

(2) 専門職研修（再掲）

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
3月8日(土) 14:00~16:00	「高次脳機能障害者の働き方の現状と今後の支援のあり方」 講 師：障害者職業総合センター 主任研究員 田谷 勝夫 氏	県リハビリテーションセンター 4階大研修室	高次脳機能障害の支援関係者

2 教室活動

(1) 生活支援教室

当事者同士の交流や活動を通じて、障害の自己認識を深めたり、代替手段に関する情報を得て、安定した地域生活へつなげることを目的としています。

日 時	内 容	会 場	対 象 者
毎週水曜日 10:00~15:00	当事者同士の話し合い(スピーチや活動計画等)、軽スポーツ、体操、グループワーク、外出、レクリエーション、勉強会等	ほっとあんしんの家(リハビリテーションセンター隣) 他	高次脳機能障害者 (65歳未満)

(2) 家族教室

日 時	内 容 お よ び 講 師	会 場	対 象 者
7月5日(金) 13:30~15:30	講 義：「高次脳機能障害の理解と対応について」 講 師：リハビリテーションセンター 作業療法士 講 義：「家族会紹介」 講 師：高次脳機能障害患者と家族の会つばさ 交流会	県リハビリテーションセンター 4階研修室	高次脳機能障害者の家族
9月5日(木) 13:30~15:30	講 義：「高次脳機能障害の理解と対応について」 講 師：リハビリテーションセンター 作業療法士 講 義：「使える社会資源について」 講 師：ソーシャルワーカー 自動車事故対策機構 職員 交流会		
12月5日(木) 13:30~15:30	講 義：「高次脳機能障害の理解と対応について」 講 師：リハビリテーションセンター 作業療法士 講 義：「就労・復職について」 講 師：金沢障害者就業・生活支援センター職員 交流会		

● 「高次脳機能障害患者と家族の会つばさ」からのお知らせ

障害があってもその人らしく暮らしたい！目に見えにくい障害だからこそ当事者、家族は悩んでいます。同じ思いをしているからこそ分かりあえることもありますし、共に前に進むことができますと思います。一度家族会に足を運んでみませんか？お待ちしております。

平成25年度 行事予定

日 時	内 容	日 時	内 容
5月12日(日)	総会	10月20日(日)	定例会
6月16日(日)	定例会	11月17日(日)	定例会
7月21日(日)	定例会	12月15日(日)	クリスマス会
8月18日(日)	定例会	1月19日(日)	料理教室
9月1日(日)	福祉の集い2013金沢に参加	2月16日(日)	定例会
9月29日(日)	パイロットウォークに参加	3月15日(土) 16日(日)	反省会
10月5日(土) 6日(日)	生活訓練キャンプ		

定例会は14時からほっとあんの家（リハビリテーションセンター隣）にて開催。

会場は変更の場合がありますので、詳細については高次脳機能障害相談・支援センターまでお問い合わせください。

難病相談・支援センター事業

難病患者やその家族の病気や療養上の悩みなどに関する相談、患者会、医療機関、福祉制度などの情報を提供しています。内容によってご希望の方は専門医（神経内科・整形外科・免疫内科医）による相談も可能です。また下記のとおり難病に関する研修会を開催していますので、詳細については難病相談・支援センターまでお問い合わせください。

平成25年度 行事予定

1 医療講演会

日時	内容および講師	会場	対象者
6月29日(土) 14:00~16:00	講演①:「脳脊髄液減少症について」 講師:仮認定NPO法人脊髄液減少症患者・家族支援協会 代表理事 中井 宏氏 講演②:「脳脊髄液減少症の診断とその治療」 講師:明舞中央病院 脳神経外科部長 中川 紀充氏	県リハビリテーションセンター 4階大研修室	県内医療関係者(脳神経外科、神経内科等) 交通事故担当警察官 養護教諭 市町・県保健関係者 脳脊髄液減少症の会石川等
9月12日(木) 14:00~16:00	講演:「特発性大腿骨頭壊死症の理解と対応について」 講師:金沢医科大学病院 整形外科部長 兼氏 歩氏	県リハビリテーションセンター 4階大研修室	大腿骨頭壊死症の患者、 家族の方 保健関係者 等

2 就労相談会

日時	内容および講師	会場	対象者
11月19日(火) 13:30~15:30	講演:「未定」 講師:ハローワーク金沢職員	県リハビリテーションセンター 4階大研修室	難病当事者、家族の方 医療・保健・福祉関係者 等

3 セルフマネジメント(自己管理)研修

日時	内容および講師	会場	対象者
11月16日(土) 13:30~15:30	講演:「こころと身体のリラゼーション」 講師:大阪樟蔭女子大学大学院 准教授 臨床心理士 高橋 裕子氏	石川県勤労者福祉文化会館(フレンドパーク石川) 2階 全ホール	難病当事者、家族の方 医療・保健・福祉関係者 等

4 難病患者生活支援普及啓発事業(語り部)

今年度も、難病相談・支援センターでは「語り部」事業を行います。

「語り部」事業とは…将来、医療や福祉の仕事に携わることを夢に描いている学生たちを対象に、難病患者の体験談を通して、難病の理解を深めてもらうことを目的とした事業です。

毎年、講演後には難病患者の方、学生の皆さんからもご好評の言葉をいただいています。

開催依頼のご連絡をお待ちしておりますので、センターまでお問い合わせください。

問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail iprc@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri>

高次脳機能障害相談・支援センター

TEL (076) 266-2188 FAX (076) 266-2864

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>

難病相談・支援センター

TEL (076) 266-2738 FAX (076) 266-2864

E-mail nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>

「相談は傾聴、親身、親切に」

リハビリテーションセンターでは

県民ニーズに応えるため、

より質の高いサービスの提供を

目指しています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター

〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1